

宍道湖西岸地区の
外来種
対策マニュアル



近年、日本全国では多くの外来種が増え、生態系や私たちの暮らしにも影響が及んでいます。このマニュアルは、宍道湖西岸地区の農地周辺で主に営農活動などに被害を与える侵略性の強い外来種を取り上げ、今後の対策へ活用していただくものです。

外来種とは？

外来種は「元々いなかった地域に人の手によって棲みついた生物」のことです。日本には人の住む以前からその土地で進化適応した「在来種」が棲んでいますが、外国との往来が盛んになった明治期以降から外来種が増え始め、現在では 2200 種以上の外来種が棲むようになりました。「外来種」には、外国から入ってきた「国外外来種」のほかに、日本の在来種でも別の土地に移動されて棲みついてしまった生物も含まれ、「国内外来種」または「国内移入種」と呼ばれます。

外来種の中でも次にあげられる生物は「侵略的外来種」といわれ、生態系や農林水産業、人の健康に大きな被害があるため、注意が必要です。

特定外来生物

日本では 2005 年から外来種の被害を防ぐための「**外来生物法（特定外来生物被害防止法）**」という法律が施行されました。生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼす恐れがある国外外来種が「**特定外来生物**」に指定されています。特定外来生物は、輸入、放出、飼養等、譲渡等が禁止され、法律として厳しく規制されています。宍道湖西岸地区では 6 種の特定外来生物が確認されています。

生態系被害防止外来種

農林水産省と環境省が生態系や人間生活、農作物などに影響を及ぼす恐れのある外来種を指定したもので、そのリストが「**生態系被害防止外来種**」として公表されています。法的な規制はありませんが、多くの人々に外来種に対して適切な行動を呼びかけ、日本の生態系等への被害を防止するために作られました。特定外来生物だけでなく、日本の生態系に被害を及ぼすおそれのある侵略的な外来種など約 430 種を対象としています。被害状況により、以下のカテゴリーに分類されています。

総合対策外来種（緊急・重点・その他）

産業管理外来種

定着予防外来種

外来種の問題点

● 生態系への影響

外来種が**在来種を直接捕食**して数を減らしたり、**エサや住みかを奪い**、在来種を追いやってしまいます。また、在来種と近縁な外来種が交雑し、**在来種本来の遺伝子が失われて**しまいます。



● 農業への影響

外来の動物は稲や畑の**農作物を食べたり**、**踏み荒す**などの被害を与えることがあります。また、繁殖力が強い外来の植物では、**農地に侵入すると収量や農作業に影響**を与える恐れもあります。



● 人への影響

外来種の中には、セアカゴケグモのように**毒をもつものや**、**噛み付いたりして危害**を加えるものもいます。また、デング熱を媒介するネッタイシマカのように、日本には存在しなかった**病気の発症や感染が広がる**危険が増大します。



次ページから紹介する外来種は、宍道湖西岸地区で営農活動に被害を与えるものや生態系への影響が大きい代表的な種を取り上げています。影響の大きさによってレベルを分けています。



ナガエツルノゲイトウ

ヒユ科 南アメリカ原産

特定外来生物・総合対策外来種（緊急）



水陸両生。切れた断片で旺盛に増殖。繁殖力・再生力が非常に強い水草。河川、排水路に定着。

■ 営農への影響



水路での通水障害、水稻の生育阻害、収穫機械へのからまりによる作業効率の低下。

■ 生態系への影響



在来植物の減少。水面を覆い植物のすみかを奪う。



畦を覆うナガエツルノゲイトウ

対策・注意点

- ・水路は手で根から抜き取り 生育量が少ない時期に除去。
- ・畦では除草剤の散布
- ・除去後は焼却処分

【注意】

切れた断片は放置すると増えていくので、小まめに処分する。刈払機による草刈りはしない。

形態・見分け方



似ている植物

メリケンムグラ



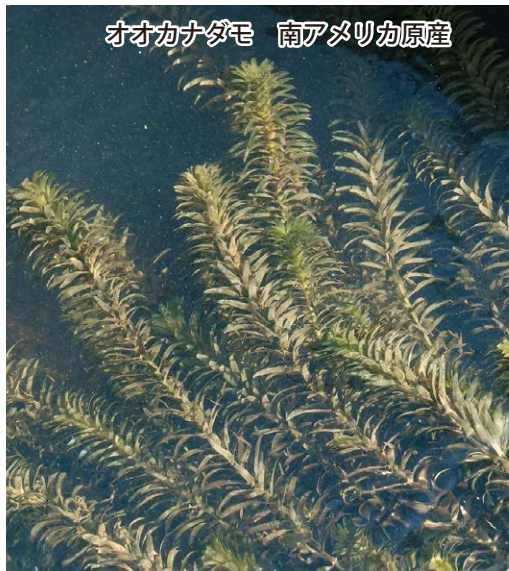
葉のつき方と形が似るが、本種は茎に細かい毛があり、花の形が異なる。

オオカナダモ・コカナダモ

トチカガミ科

総合対策外来種（重点）

オオカナダモ 南アメリカ原産



コカナダモ 北アメリカ原産



切れ藻で旺盛に増殖し、分布を広げる水草。
河川、農業水路に大群落を作るなど広く定着。

■ 営農への影響



水路での通水障害、集塵機などのつまり、土砂堆積。

■ 生態系への影響



水面を覆い在来植物のすみかを奪う。
付着藻類の生育阻害。



水路を覆うオオカナダモ

対策・注意点

・藻刈り

生育量が少ない秋～冬期に除去。

・拡散防止

水路内に柵を設置し、切れ藻を受けとめる。

【注意】

切れた断片から増えていくため、藻刈りの際は網で受けるなどして拡散を防ぐ。

オオカナダモ



コカナダモ



似ている植物

クロモ



在来種。茎がやわらかく、葉は3～8枚で縁がギザギザ。

アメリカザリガニ

アメリカザリガニ科 北アメリカ原産

条件付特定外来生物・総合対策外来種（緊急）



繁殖力がとても強いエビ類。河川、農業水路、ため池などに広く定着。

■ 営農への影響



畦に穴を掘り水田を漏水させる。

■ 生態系への影響



在来水生生物を捕食する。水草を切る。



腹に稚エビを抱えたメス

対策・注意点

- ・捕獲による駆除
たも網や罟で捕獲する。
- ・水路干し
水を抜いて乾かす。

【注意】

飼育は可能だが、放流や販売が禁止されている。

形態・見分け方



茶褐色～赤黒い体



アメリカザリガニ
幼体

ニホンザリガニより
体型がやや細身

島根県には元々棲んでいないニホンザリガニと誤解されることがある。

ヌートリア

ヌートリア科 南アメリカ原産

特定外来生物・総合対策外来種（緊急）



土手や土管などに巣穴を作り繁殖するげっ歯類。河川、農業水路の周辺に定着。

■ 営農への影響



水稻、果菜類、根菜類など地中に埋まっている作物の捕食。巣穴による堤防、水田の畦の破壊。

■ 生態系への影響



在来水草や二枚貝などの貝類を捕食する。



ヌートリアに捕食されたイシガイ

対策・注意点

・農地への侵入防止

通り道にネットや串網、電気柵などを設置する。野外に残った農作物を放置しない。

・捕獲による駆除

箱罠で捕獲する。

【注意】

被害が出て捕獲が必要な場合は、自治体の許可を得ることが必要。

形態・見分け方



排水管に隠れるヌートリア。警戒心が強く、気配を察知するとすぐに逃げる。

アマゾンチカガミ

トチカガミ科 南アメリカ原産

総合対策外来種（重点）



繁殖力の強い浮遊性の水草。密生すると株が立ち上がる。農業水路に広く定着。

■ 営農への影響



水路での通水障害。

■ 生態系への影響



水面を覆い在来植物のすみかを奪う。



水路に繁茂するアマゾンチカガミ

対策・注意点

- ・すくい取り、抜き取り
生育量が少ない時期に除去。
- ・拡散防止
柵で切れ藻を受けとめる。

【注意】

切れた断片から増えていくため、除去の際はたも網で受けるなどして拡散を防ぐ。

形態・見分け方



似ている植物



非常に希少な在来種。葉は5cmほどになり、薄く切れ込みが深い。

キシウスズメノヒエ

イネ科 北アメリカ原産

総合対策外来種（その他）



繁殖力が強く、地面や水際をはって増殖する植物。水田、河川、農業水路に広く定着。

営農への影響



水路での通水障害、水稻の生育阻害、収穫機械へのからまりによる作業効率の低下。

生態系への影響



水面を覆い在来植物のすみかを奪う。



畦に繁茂するキシウスズメノヒエ

対策・注意点

- ・水路は手で根から抜き取り
生育量が少ない時期に除去。
- ・畦では除草剤の散布
- ・拡散防止
水路内に柵を設置し、
切れ藻を受けとめる。

【注意】

水稻刈取り後の耕耘で
茎が地中に残り翌年の
発生源になる。耕耘前
に除草する。

形態・見分け方

穂は2つにわかれる



似ている植物

チゴザサ



在来種。同じ環境に見られる。やや小ぶりで穂は細かく枝分かれする。

ウシガエル

アカガエル科 北アメリカ原産

生態系への影響 !!!



特定外来生物・総合対策外来種（緊急）

- 流れのゆるやかな河川やため池などに定着する。
- 繁殖力が強く、食欲が旺盛。口に入る動物は何でも捕食する。
- オタマジャクシで越冬する。

- 【対策】 罾やたも網により捕獲して埋立駆除。

オタマジャクシ



アカミミガメ

ヌマガメ科 北アメリカ原産

営農への影響 ! ! !

生態系への影響 !!!



条件付特定外来生物・総合対策外来種（緊急）

- 流れのゆるやかな河川や農業水路に定着する。
- 在来のニホンイシガメを追いやり、水生生物や水草を捕食する。レンコンなどの農作物を食べる。
- 【対策】 罾などによる捕獲駆除（冷凍など）・放流の禁止。

子ガメ



ブルーギル

サンフッシュ科 北アメリカ原産

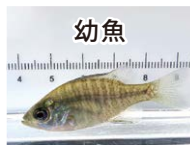
生態系への影響 !!!



特定外来生物・総合対策外来種（緊急）

- 流れのゆるやかな河川や農業水路に定着する。
- 繁殖力が強い。在来魚などの水生生物を捕食する。肉食性が強いが水草も食べる。
- 【対策】 たも網や罾により捕獲し駆除。

幼魚



タイリクバラタナゴ

コイ科 中国・台湾・朝鮮半島原産

生態系への影響



総合対策外来種（重点）

- 流れのゆるやかな河川や農業水路に定着する。
- 二枚貝に産卵するタナゴ類で、希少な在来のタナゴ類と競合する。
- 【対策】 たも網や罟により捕獲し埋立駆除。



稚魚



在来のタナゴ類

ヤリタナゴ

タイワンシジミ

シジミ科 中国・台湾・朝鮮半島原産

営農への影響

生態系への影響



総合対策外来種（その他）

- 流れのある河川や農業水路に定着する。
- 輸入シジミが野外に捨てられて増えた淡水シジミ類。用水路で増えすぎると水田の取水栓がつまる。在来のマシジミと交雑する。
- 【対策】 土砂上げ、たも網により捕獲し埋没駆除。

外来アゾラ類

アカウキクサ科 南北アメリカ・ヨーロッパ等原産

営農への影響

生態系への影響



総合対策外来種（緊急）

- 水田や流れのゆるやかな河川、農業水路に定着する。
- 増殖スピードが速く、水面を覆う。日がよくあたる場所では赤くなる。水路やダムなどで通水障害を起こす。
- 【対策】 たも網などですくい取り、アスファルトなどの乾いた場所に置き完全に枯死させる。



赤く染まる水田

外来種被害予防 3 原則

1. 入れない

悪影響を与えるかもしれない外来種をむやみに入れない

2. 捨てない

飼育している外来種を野外に捨てない

3. 拡げない

すでにいる外来種を生きたまま他の地域に持ち出さない



外来種の情報

日本の外来種について詳しく知りたい方は、下記の環境省や国立環境研究所の外来種のページをご覧ください。2023年から条件付特定外来生物に指定されたアメリカザリガニやアカミミガメの相談ダイヤルも掲載します。

環境省
日本の外来種対策



国立環境研究所
侵入生物データベース



環境省
特定外来生物相談ダイヤル

0570-013-110



アメリカザリガニ



アカミミガメ